

# 東日本大震災 被災地の復旧・復興に全力!

## 女性国会議員の手記



### 竹谷とし子参院議員

東日本大震災の被災地復旧・復興のため、懸命に働き、汗を流す公明党議員。被災地域の再建に駆ける竹谷とし子参院議員の手記を紹介します。



被災した住民から要望、声を聞く竹谷とし子議員(右から3人目) 11月18日 宮城・南三陸町

被災した住民から要望、声を聞く竹谷とし子議員(右から3人目) 11月18日 宮城・南三陸町

津波直後、高台の生活センターに220人が避難。食べるものがなく、津波で田んぼに流れ出た米を土の中からかき集めて、それを洗っておかゆにして皆で食べたこと、数日後に上空をヘリが飛ぶのを見て、自分たちで



壊滅的被害を受けた港の復旧について要望を聞く竹谷議員(右から2人目) 11月18日 宮城・南三陸町

をもらって、当たり前だと思っている。家をなくした自分たちのことなんか分るはずがない」との憤りの声も伺いました。今、この地区では、港を復旧しようという希望をもっておられます。また高台移転のための道を、「未来道」と名付けて作業を進めています。しかし、皆で力を合わせ前を向いて進もうと思っても、行政や制度の壁

が立ちふさがってきまがす。私は、何でもやらせていただくの思いで、国や県に直談判しながら1つ1つその壁を取り除いて、復興に向けて一歩が踏み出せるよう、取り組んでいるところです。また、被災地では、行政

## どこまでも被災者に寄り添い、課題解決へ働き抜く

政に仕事が集まり、マンパワーが不足しているため、全国をはじめ世界各地から寄せられた支援物資が、いまだに、あちこちの倉庫に山積みになれたままで、必要とする方々に届いていない実態があります。行政の力だけでは限

私は今、毎週のように被災地を訪れています。それは、「被災者に寄り添う」といっても、家も道も、緑豊かな木々も、全てが根こそぎ流された中で、力を振り絞って、復興に向けて立ち上がるうとされている被災者の皆さまの声に、現地で直接耳を傾けなければ、何も分からない、何も進まないと思うからです。6月19日には、炊き出しボランティアとして宮城県女川町を訪問しまし

た。配膳のお手伝いをする中で、被災された方が「津波で胸まで漬かりながら逃げたのよ。九死に一生を得たんだよ」とあの日のことをポツポツと話してくださいました。また、7月18日には、仙台から車で2時間半、

ヘリポートのマークを書き、そこに支援物資を落としてもらい、ようやく命をつないだことなど、筆舌に尽くせぬ苦勞を語ってくださいました。また、「役人も議員も給料をもらい、ボーナス

公明党の震災対策本部に出席して下さった陸前高田市の戸羽太市長は「最初に駆け付けてくれたのが公明党だった」と公明党を称賛してくださいましたが、被災地を歩く中で、「公明党のネットワークのおかげで助かった」というお声をあちこちで聞きました。そのネットワークの一員として、被災地の御用聞きに徹して、誠に、迅速に、課題解決のために働くのが私の使命です。これからも現地に飛び込み、被災者の方々に寄り添いながら、真の復旧・復興のために全力で働いてまいります。